

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4472600594		
法人名	医療法人社団栄仁会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム さるびあ【東棟】		
所在地	大分県臼杵市野津町大字宮原1181番地		
自己評価作成日	令和2年12月5日	評価結果市町村受理日	令和3年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和3年1月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症悪化予防への取り組み</li> <li>・身体機能の継続した維持支援</li> <li>・地域交流(買い物、散髪、地域の敬老会、お祭り、ドライブ、外食、子どもたちとの交流等)</li> <li>・家族交流 ・外泊、外出の自由</li> <li>・役割活動にて生き甲斐作り</li> <li>・ホーム内外での活動</li> <li>・充実した医療支援</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然豊かな環境の中に位置し、春は桜や菜の花、秋は彼岸花を施設より眺めることが出来る。医療との連携が24時間とれており利用者・家族にとって安心である。</li> <li>・施設のモットーは「利用者を孤立させない」ことであり、利用者同士の交流や職員の関りを重視して利用者本位のケアに取り組んでいる。</li> <li>・役割活動と位置づけ、利用者に仕事分担をしてテーブル拭きや洗濯物たたみなど出来る事を受け持ってもらい、活動を継続することにより利用者が生き活きとした生活を送ることができている。</li> <li>・職員は意識が高く、仕事をするのが楽しいと思える職場である。</li> <li>・コロナ禍で制約が多い中、利用者が楽しく毎日が送れるよう工夫をしている。</li> </ul>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人一人が理念を理解し常に見える場所に掲げている。利用者一人一人がその人らしく生活できる様努力している。	理念を玄関に掲示している。利用者がその人らしく生活できる為に5つのテーマに沿って支援を行い、常にその方向を目指して努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域公民館行事(敬老会、祭り、文化祭)等や児童クラブとの交流等行っている。(今年度はコロナの影響にて交流はできず)	公民館より招待され敬老会に参加したり児童クラブとの交流、商工会より竹を頂き、七夕飾りをするなど地域との活発な交流が行われていた。今年度はコロナ禍で出来ていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関する講演や実習生の受け入れ等行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回運営推進会議を行い、毎回さるびあの活動報告を行い意見やアドバイスを頂いている。開催前に推進委員さんたちとのオヤツ作りも行っている。	行政や公民館長、民生委員、地区の消防団長などの参加がある。施設の状況を報告し参加者より意見を頂いている。コロナ禍で開催されない時は状況報告を郵送し意見ももらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等に毎回参加頂き意見やアドバイスを頂いたり、市の開催するオンライン研修等への参加を行っている。	推進会議には毎回市の介護保険課より参加があり馴染みとなり連絡を取りやすい。疑問などあれば電話で相談し、アドバイスを頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設以来身体拘束をしないケアに実践に取り組んでいる。又、毎月、利用者個人に対する言動や対応に対して適切であるか検討会を行っている。検討内容は運営推進会議にて報告等行っている。	継続してずっと身体拘束ゼロに取り組んでいる。毎月1回利用者一人ひとりにどう対応しているか振り返っている。食事時やトイレ誘導時の声掛けの仕方などを検討している。法人内のオンライン研修に参加している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	Dr参加にてホーム内での研修を行ったり、朝夕のミーティング時に入居者の状況変化の報告を行い利用者が安心して生活できる様配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議にて、市役所の方の協力を頂き、担当者による成年後見制度の話をして頂く機会を得たり市の研修に参加し、ご家族の相談があれば応じる体制はできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、契約書を読み上げ十分な説明を行い不安や疑問への対応を行っている。また、改定や変更があれば変更書類を作成し都度十分な説明を行い納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時やケアプラン作成時に利用者本人や家族へ要望と尋ねたり、面会時に日常の状況等報告している。	コロナ禍で面会が出来ていないので、状況報告と一緒に利用者の写真を撮り、手紙を添えて家族に送っている。電話で家族と話したり用事で来所してもらった時などに意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスにDr(代表者)に参加頂き意見交換や日常の状況報告をしている。又、月一回の全体会議にても状況報告を行っている。	毎月のカンファレンスに経営者が参加するのでその時に意見を聞いている。毎朝のミーティングでも管理者が聞いている。入浴補助具が欲しいという意見を受け、設置された事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修への参加や各資格取得研修への参加等積極的支援をして頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する研修や市、県での外部研修やホーム内での研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議への参加にてケアプランへのアドバイスを頂いたり、他のグループホームの状況を聞く機会を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にホーム内の見学をや利用者の生活状況の説明を行う機会を設け、不安や意見等があれば納得頂き、安心した生活ができる様配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と面談し、ご本人の様子や状況を尋ね、ご希望とあれば家族の意見をケアプランに反映することを説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の居宅支援事業者や、他の居宅等に連絡、相談にて協力頂く様な体制はできている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の状況に応じて役割活動への参加支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は日常の状況報告を必要に応じ行っている。又、外泊・外出は自由としている。(コロナの影響で面会・外泊・外出は控えて頂いている)電話にて状況を伝えたり写真を送ったりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の敬老会に参加したり、買い物、散髪へ出かけたり、馴染みの関係への支援を行っている。また知人の面会も積極的に受け入れている。(コロナの影響にて地域への外出面会等は控えて頂いている)	コロナ禍以前は知人の面会や出掛ける事も多かった。そういう中でも散髪ボランティアが2か月に1度来てくれる。正月の初詣を計画していたが寒波で中止になった。少ない機会を見つけてこれまで馴染んで来た事を継続しようと努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の以前からの顔なじみの方との交流、又、他の入居者との交流もレク活動や共同作業で支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時の面会や地域での交流時等状況を尋ね状況に応じ相談助言を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩やドライブ、役割活動など本人の思いや希望を把握しケアプランへ反映支援を行っている。	毎日の趣味活動をする中で気持ちを汲み取っている。一日ボーっとする時間を作らないように、好きなカラオケをしたり本の読み聞かせなどで様子を見たり、寄り添って話をしたりして気持ちを把握しようと努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・本人の意見を基に、入居時「はじめの一步」シートを作り職員の共有資料としている。又、本人とのコミュニケーションからも状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の状況に応じた役割活動を支援し「できる事」を見極め参加支援している。歩行など現状維持できる支援にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時の情報共有や毎月定期カンファレンスにDr・Ns・Pt・スタッフ全員参加にて実施している。定期的モニタリングと家族の意見や要望も頂いている。	毎日のミーティングや3か月ごとのモニタリングで職員全員で話し合っている。ケアプランの説明時などで家族の意見を聞いている。利用者の状態が変わればその都度プランの変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や排泄状況等ミーティング時に報告を行い個別に記録している。夜間状況や体重・水分摂取記録等も受診時やモニタリング時に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域行事参加やドライブ、家族と共に病院受診への付き添い、家族よりの依頼の行政等への対応支援への配慮等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	児童クラブとの交流や、町内商工会七夕飾り展示や公民館行事への作品の出展、又、敬老会への招待を頂いたり、地域の協力は大いにあり。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の定期受診を職員が支援している。他の皮膚科や眼科等は家族の対応を行って頂き、ホーム職員が付き添った時にはDrへその状況の説明を行っている。かかりつけ医や歯科の訪問診療も行っている。	入居時に本人・家族の希望する主治医を選ぶことができる。医大や県病などの受診は家族対応であるが、毎月2回協力医への定期受診があり職員がクリニックに同行している。訪問歯科も定期的に訪れており、継続して治療に当たっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状況変化時Nsへ報告することでDrへ受診や往診を頂ける体制になっている。週3回Ns来訪頂き身体状況や精神状況の把握を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時スタッフが必ず付き添い、ホームでの生活状況や精神・身体状況をサマリーにて添付し、入院状況についても電話等にての報告を頂くように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制にての指針の説明を入居時、ご本人と家族へ行っている。ターミナルケアについてはご家族の希望に応じDrとの連携体制はできている。	入居時に重度化に向けての指針を説明し同意を得ている。状況に合わせてその都度話し合っており、納得のいく対応をしている。母体のクリニックによる24時間対応の訪問診療の体制が整っている。医療との連携で看取りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	災害時や事故発生、緊急時の対応の研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い緊急時の連絡体制を確認できるようにしている。	年2回の防災訓練を行っている。避難・通報や夜間想定訓練を行っている。消防団長の助言で防火水槽を設置したり、消防団による夜の見回りを受けている。臼杵市福祉避難所に指定されている。施設内に1週間分の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ移動、使用時、又、入浴の際のこえかけ等プライバシーへの配慮を行っている。個人に応じた声掛けや誘いの工夫もしている。	利用者に対しての声掛けの仕方に気を付ける。耳元での声掛けや「ちょっと散歩に行く？」などと言ってトイレ誘導をしている。人権について内部研修を行っており、尊敬の念をもって支援に当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩や買い物等希望があれば対応している。嗜好調査等も意見を反映できる様は配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に応じた行事やドライブ、散歩等の対応。又、行いたい作業の要求に沿った支援等への配慮をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や朝の日常着の選択等共に行っている。個人に沿った化粧品の購入支援や美容院のボランティアの受け入れも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭き、お膳拭き、食卓拭き等できることを支援、見守りを行っている。	3食施設内で調理されており音や匂いを感じることができる。テーブル拭きなど出来る事を一緒に準備している。寿司やぼた餅など希望があれば取り寄せている。ケーキを焼いたり、おやつ作りをしたり楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に応じた食事量や水分、塩分等、Drや栄養士と相談しながら提供している。個別に摂取状況や水分摂取状況に応じた記録も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、義歯洗浄の対応。週二回の義歯消毒(ポリデント)も行っている。又、定期的訪問歯科の受診も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄状況を排泄表に記録し把握している。時間的誘導などトイレでの排泄が続けられるように支援している。	ほとんどの利用者がトイレ使用である。夜間のみポータブルトイレを使ったりする。トイレに行くと言う行為で、尿意が残っている意識を重視し、下肢筋力強化にもつながっている。排泄パターンや水分の摂取量と排泄量を把握して声掛けを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて排便状況を確認しながら、歩行訓練や腹部マッサージの対応、又、食物繊維の多い食材の取入れなど工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回午後入浴の対応や希望があればシャワー浴等対応を支援している。	週3回入浴である。拒否されるときは、声掛けに工夫したり入りたい時に入浴することができる。清拭やシャワー浴に変更することもある。毎朝利用者全員清拭をするなど身体の清潔に心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中作業や役割活動や作業への参加や馴染みの寝具の持参使用や個人の応じて入眠までのTVや読書、折り紙等過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や処方記録の説明にてスタッフがわかるようにし、又、個人の受診ノートやミーティング時に変化や処方箋がわかるよう情報の共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好みや趣味、できることを把握し、行事や役割活動、作業、レクリエーション計画等対応の工夫を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の祭りや敬老会行事の参加。家族との外出外泊の支援、外気浴やグランドゴ、ルフなどホームでの野外活動の取り組みを行っているが、今年はコロナの影響にて活動を自粛、状況を見ながらドライブ等は行った。	コロナ禍で外出が中々出来ていないが、出来る事を実践している。施設の周りには桜や菜の花、彼岸花など花や木が多く散歩しながら季節を感じることができる。ホールでグランドゴルフを実施したり、車から降りずに用件公園へドライブに出かけるなど工夫をして楽しんでもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の状況に応じた希望物品の購入支援等行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の取次ぎや、ご本人の希望に沿った電話での連絡を支援している。又、ホームでの生活写真を、書ける方は自筆の手紙を添えお送りしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話室や広縁からお茶を飲みながら外を眺められるようにしたり、テーブルには季節の花を飾ったり、季節ごとに壁紙の工夫をしている。	利用者を孤立させないことをモットーに取り組んでいる。畳にこたつを置いてくつろいだり、行事の写真を掲示したりしている。テーブルなどは利用者の動線を遮らないように配置している。エアコンと加湿器を使用し快適な環境作りに配慮している。3部屋続きの広縁があり利用者同士の交流の場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの設置や椅子を準備し自由に過ごしたり、広縁でゆっくり過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具、シルバカー等、又、家族の写真を飾ったり、安心して過ごせるよう配慮している。	部屋には毎年の誕生日の色紙や家族の写真などが飾られ、使い慣れた家具や小物を家から持ち込んで落ち着いた雰囲気作りになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ入口に目印を付けたり、必要に応じて補助具を使用、自立支援への工夫配慮を行っている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4472600594		
法人名	医療法人社団栄仁会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム さるびあ【西棟】		
所在地	大分県臼杵市野津町大字宮原1181番地		
自己評価作成日	令和2年12月5日	評価結果市町村受理日	令和3年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日			

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣接の医療機関との連携にて安心した医療支援</li> <li>・自立支援への働きかけ・地域商工会との協働</li> <li>・運営推進会議の協力にて児童クラブとの交流</li> <li>・地域行事への参加(敬老会・お祭り・作品の出品等)</li> <li>・広大な敷地にて野外活動・ホーム内外の活動</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p><b>【グループホーム さるびあ 東棟に記載】</b></p>
------------------------------------

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	手作りの理念をホーム内に掲げ、職員にも配布し、理念に沿った業務を遂行している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域公民館の利用や、季節行事へのお誘い、出品作品等の参加を積極的に行っている。(今年はコロナの影響で交流はできず)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設実習の受け入れや要請に応じた講演活動への参加も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を行い、さるびあ の活動状況を報告、意見やアドバイスを頂 いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回運営推進会議に参加頂き、意見やアドバイスを頂いたり、困りごとや相談には連絡することですぐに応じて頂いている。オンライン研修等への参加。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初から、身体拘束をしないケアの実践を行っている。又、毎月1回身体拘束の勉強会を行い、ミーティング等でも話し合いを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1回のカンファレンスや勉強会を行い、入浴時や更衣時等身体の状態を観察し、情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議にて市役所の担当者から成年後見制度に関する勉強会を行って頂く機会を得た。必要状況に応じ対応する準備を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に家族とご本人の説明し契約を行っている。又、改正時には、きちんと説明を行い書類等にて追加契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に近況を伝えたり、ケアプランの説明時要望を尋ね、プランへ反映させる等努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のカンファレンスにDr(経営者)に参加頂き、職員の意見や思いを聞いて頂く機会を得ている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修の参加や資格取得への応援を頂いている。又、人事考課にて評定することで個々人の実行力や能力を把握頂き、昇給等へ反映頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する研修や外部研修に参加し、研修結果をホーム内で報告することで共有している。又、ミーティング時等意見へのアドバイスをを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナ感染予防の為、外部への研修参加は控え、オンライン研修等の取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	始めの一步を作成し、本人の要望や意見を聞く機会を設けている。嗜好調査等も行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に本人と家族と話し合いを行い、不安等の解決を図っている。又、その後来訪時に要望や不安等を尋ねる機会への配慮を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況を確認し、カンファレンスを行いケアプランへ反映している。又、必要状況に応じ居宅との相談連携を取れる体制はできている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	タオルや洗濯物たたみやお膳拭き等本人の力を見極め役割活動に参加頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要時面会を依頼したり、家族へ状況を報告したり電話をかけたり、面会禁止の折は手紙を出したりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室へ出かけたり、かかりつけ医への対応や知人等の面会の受け入れを行っている。(コロナにてこれらは控えている)		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居している方で気が合い、話が合う人と交流し、トラブルとならない様スタッフも共に話しやすい関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居しても家族との関係を大切にしたり、地域の行事にも参加し交流の機会を得ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランでご本人の意見を把握したり、日々利用者とのコミュニケーションを図り気持ちを知るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者と日々の会話や家族などから生活歴や馴染みの暮らしを聞き、始めの一步をまとめ把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る力の発揮にて作業参加や趣味活動を活かせる活動への参加行ってもらったり、残存機能を低下させない様補助具を使った日常生活への支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	DrやPt参加にて定期的ケアプランに沿ったカンファレンスやモニタリングを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングやケースにて日々の気づきなど記録し、スタッフ間で共有実践し結果等はカンファレンスやモニタリングにて検討プランへ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行事参加、散髪、ドライブなどご本人の希望に沿った支援を行いご家族の要望等も聞く機会を得ている。又、役所等への申請等希望や要請があれば対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館の活動や行事への参加、児童クラブとの交流、商工会等への七夕飾りの出品と大いに交流できているがコロナにて様々に影響がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診(月2回)やNs来訪にて利用者の身体状況や精神状況の把握を行い必要時Drへ連携する流れができている。訪問歯科の受け入れも行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良や状況変化時、速やかにNsに報告することでDrに連絡すぐに受診や往診を頂く体制ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族と共にスタッフが付き添いホームでのADL状況や精神面での状況を伝えている。又、サマリーにて情報の提供も行っている。退院時の連絡を頂く体制の整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時ホームの意向を伝えると共に、必要時には御家族とDrを交え話し合いを行ない、家族・本人が希望されればターミナルケアの受け入れを行うこともできる体制はある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	災害時や事故発生時、緊急時対応の研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的防災避難訓練や通報訓練を行っている。地域消防団長に運営推進会議に参加頂いており、ホーム周辺の夜回りも行って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ使用時や誘導時はプライバシーへの配慮した声掛けを心がけ、又、なれ合いの言葉使いには気を付ける様努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人の希望やその日の体調等を見ながら役割活動に参加して頂いたり、起床時にはその日に来る服を選んで頂いている。嗜好調査を行い料理にとり入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の要望を尋ね、やりたい事、行いたいことの支援をしている(折り紙、塗り絵・縫い物等)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服を選べる方は選んで頂いたり、食事で汚された時はすぐに更衣をしたり、2か月に1回美容師さん来訪にて散髪をして頂いている。又、化粧品等の購入依頼にて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けを工夫したり、個人の状況により食事形態を変えたり、食べやすいように配慮したり、下膳やおしぼり配り、食器拭き、膳拭き、食卓の拭き上げ等参加頂いている。(コロナにて共に調理への参加はしていない)		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	in・outの支援。夏場は麦茶の対応をしたり、配膳のお茶は全部飲んで頂くよう声掛けしたり、食事摂取不十分な方には捕食の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所にて一人一人に合った口腔ケアを実施している。口腔ケアができない方にはスポンジや口腔ケアティッシュ等の対応を行っている。又、訪問歯科にて歯のメンテナンスや洗浄等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人に沿った排泄パターンを一覧表にして状況の把握とスタッフ間の共有にて必要に応じた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸の働きを活発にするため歩行訓練を行ったり、オヤツにヨーグルトを出したり、食材に繊維質のものをしたり工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後に入浴支援を行っている。希望者があれば個別入浴も行っている。又、夏場はシャワー浴等の対応も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中できるだけ活動参加の支援を行ったり、馴染みのシングラ使用したり、就寝前はテレビを見たりゆっくりリラックスできる時間の提供に勤めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期受診時は状況報告を行い服薬等の変更時はミーティングにて報告や個人の受診ノート記載にてスタッフ間の共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫い物や洗濯たたみ等語本人の能力に応じ参加支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物やドライブ等の支援を行っているが、コロナの影響にて現在は控えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の状況に沿って買い物等の支援を行っているがコロナの影響にて、買い物希望があれば職員が対応を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の対応やご本人の希望があれば電話の対応等支援している。又、ホームでの写真を送ると共に自ら書ける方は手紙を添えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の飾り付けや花等を飾っている。西棟の食堂の上には天窓があり光もよく差し込んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに自由にくつろいだり、居室や広縁に過ごせるよう椅子等の配置を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やタンス等持ち込んだり家族写真を飾ったり対応している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの入口に目印を付けたり、必要に応じて補助具を利用し、現状維持の生活支援ができる様支援を行っている。		